

中国地区福祉科 高校長会が総会

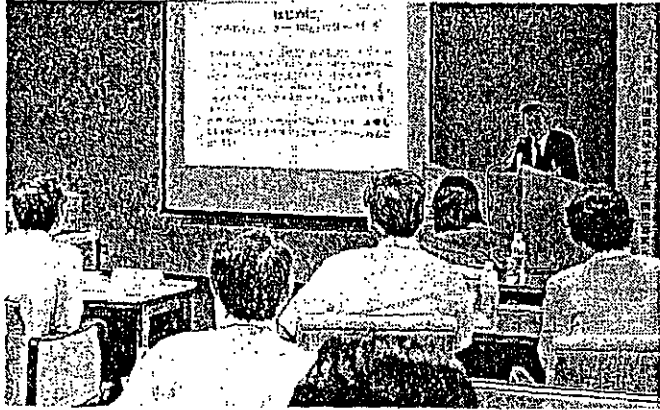
川崎医福大

中国地区福祉科高等学校長会の本年度総会と研究協議会が十四日、川崎医福大(倉敷市松島)であり、高齢化社会が急速に進む中での福祉教育のあり方について話し合った。

中国五県の福祉関係の

科を持つ高校十四校が参加。研究協議会は、岡山県高等学校教育研究会福祉部会と合同で行い、計三十六校の校長や教諭約五十人が、各校の取り組みや、介護福祉士の国家試験合格状況など情報交換した。

続いて同大の岡田喜篤学長が「わが国の医療福祉人材の現状」と題し講演。医療現場の経営を管



医療福祉の人材育成について講演する岡田学長

理し最新機器を導入する医療マネジメントの重要性や、「ソーシャルワーカーは患者に最適なサービスを提供するために、勤務する病院に意見することも必要」など、求められる人材について解説した。

H174
 1. 陽城院 9A29日

福祉科の歩み振り返る

中央 高校 150人出席し10周年式典

県立倉敷中央高校（倉敷市西富井）の福祉科設
 置十周年式典が二十八
 日、生徒や関係者約百五
 十人が出席して同市寿町

スライドで十年の歩み
 を振り返ったあと、中根

公郎校長が「多くの卒業
 生が地域福祉の担い手と
 して活躍しているのは学
 校の誇り。十年を節目に
 役割を再認識し、時代の
 要請に応えたい」と式辞、
 生徒代表の三年、四方田

香澄さんが「向上心を絶
 やさず福祉のスペシャリ
 ストとして成長したい」
 と決意を述べた。

同校の福祉科（定員四
 十人）は一九九六年、県
 立高校で初めて設置。高
 梁市の吉備国際大学との
 高大連携などを進め、介
 護福祉士の合格率は毎年
 八割前後で全国平均の五
 割弱を大きく上回る。



10周年の節目を迎え、出席者が決意を新たに
 した倉敷中央高校福祉科の式典

函館大妻高等学校

【 北海道 】



「介護福祉しっかり学べます」



本番さながらの実技指導が行われた一般向けの講習＝大妻高

【神山香峰子】介護福祉士国家試験の二次試験(実技)が7日、全国一斉に行われる。函館大妻高校(外山茂樹校長)ではこの時期、同試験に向けて講習会を開いているが、生徒だけでなく一般の受験者にも無料で門戸を開放。募集はしないが、合格率の高さなどが口コミで広がり、毎年80人前後が受講している。

同校は1988年に福祉科を開設。1期生が卒業年度を迎えた91年から同科生徒全員が介護福祉士の国家試験を受けている。合格率は初回から全国の

一般対象に実技指導

国家試験の講習会人気

大妻高

福祉系高校の平均を上回っており、2回目からは常に70%以上。一般も含めた受験者全体の合格率が毎年50%前後であることを考えても全国トップレベルの合格率を誇っている。

実技講習は一次の結果発表後に行われるが「生徒だけでなく、日ごろお世話になっている福祉関係者への恩返しになれば」と一般からの希望者も受け入れた。

また全国の福祉系学校から教諭らが視察に訪れるほか、数年前からは青森の東奥学園高福祉科の生徒の実習も受け入れている。

参加者は、同校卒業生が実習や就職で行った福祉施設の役員さんを中心に、初回は約30人が参加。本番さながらの実習と基礎から確認できる内容が好評で、5

年ほど前から80人前後を数え、今年も70人が受講した。この数に上るために

今年からは、一般と生徒を分けて講習を開催。一般向けには2月27、28日、3月3日の3日間開講した。

大妻卒の同僚からの紹介で受講した今金町の特別養護老人ホーム「豊寿園」の寮母、佐藤孝恵さん(24)は「これまで知らなかった基礎が学べるので参考になります」と話していた。

講習は生徒向けのものを含めると毎日開講する。人数が増えると教諭らの負担も大きくなるが、「学校が地域に貢献できる部分として、受け入れ数を制限したくない。今後も講習の日数を増やすなど対応していきたい」(福祉科主任・池田延己教諭)としている。

二次試験の発表は31日。



めざせ！介護福祉士

大妻 高校 4校合同で実技講習

大妻高校(外山茂樹校長)の福祉科実習棟で、介護福祉士国家試験2次に向けた実技講習が続けられている。23日は、同校福祉科生徒のほか、森、留寿都、青森東奥の3高校からも生徒が参加し、資格取得を目指す。熱心に基本技術や試験内容を想定した課題の習得に励んだ。

介護福祉士の国家試験は、1月27日に1次の筆記試験があり、合格者が3月3日の実技試験を受ける。大妻高校は、10日から3月1日まで2次試験に向けた実技講習会を開催。福祉科3年生のほか、福祉施設などで働く一般受験者も受講している。

人の生徒が参加。同校教諭陣から、ベッドから車いすへの移動、ベッド上での衣服着脱などの基礎技術を教わり、試験を想定した例題を繰り返して練習した。声かけや介助歩行のポイントなど、試験に向けた具体的なアドバイスもあり、生徒は真剣な表情でノートに書き取った。

【早坂直美】

実技試験に向け、実技練習を繰り返す生徒

改革の波

の未私立高校は

▷下◁

■函中部27人辞退

札幌市内の私立高校長が、ほぼ一斉に辞退した。

「遺憾に白言合、ラ・サール」

「函館の私立がうらやましい」

その理由は、明白だ。「道内の公立と私立の高校生の比率は七対三。しかし、函館は私立の比重が少し高いんです」

函館地区私立高校長会によると、函館市内の中卒者の進学先は、公立と私立の割合が六対四。公立の進学校、函館中部でも、本年度は二十七人が入学を辞退した。「そのほとんどが、函館の有名私立に流れた」(同会)

という。

函館の私立高校は、大学への進学実績や遺愛女子をはじめとする道内随一の歴史の重みだけでなく、独自の魅力で生徒を引きつける学校も多い。

■資格取得で選択

函館大妻の福祉科二年生の「食事介助実習」。広々とした教室で、介護服姿の石田通さん(左)は、患者役の生徒に明るい声をかけながら実習に励んでいた。

同校は十四年前、道内初の福祉科を開設。同科は毎年、介護福祉士の国家試験に生徒の九割

多様化進め魅力づくり

生き残り



近くが合格する実績を誇る。石田さんは、函館市内の公立高普通科にも合格したが、「資格が」と函館には、「こつた」私立第取得の就職先に困らない」と、「志望者」は少なくない。この学校を選んだという。一方で、「年間公立の三倍

介助実習に励む函館大妻福祉科の生徒たち。ほとんどの生徒が志望動機に「国家試験の実績」をあげるといふ

の費用がかかる」といわれる私立のイメージをめぐり、生徒確保につなげる動きもある。

室蘭市の聖ベネディクトと室蘭大谷、登別市の登別大谷は今春から、入学金の大幅な値下げに踏み切った。これを可能にしたのが室蘭、登別両市が設けた補助金制度だ。両市は一人当たり約十万円を、各校に援助。学校側が自腹を切ることで、入学金がゼロとなるケースもある。

道内で最も厳しい少子化の波に洗われている胆振地区。室蘭市の門馬三三四教育長は「かつては私立に生徒を受け入れてもらっていた。少子化の今、公私を問わず地元を育てるのが地域の責任」と補助の理由を説明する。

■身内も競争相手

生徒確保へ「身内」とのしわざあいを覚悟した高校もある。「これまでには遠慮があった。でも、半年近くかけて、やっと系列の了解を得た」と札幌大谷の竹内修校長は話す。

同高は来春から、普通科の音楽、美術両コースを分離し、音楽科、美術科を新設。これを機に函館地区、帯広、釧路地区などで、初の「出張入試」を実施する。実は、このうち四地区で同じ「系列」の高校と入試がぶつかることになる。

道内で校名に「大谷」と付く高校は、札幌のほか函館、室蘭、登別、帯広、稚内に計五校。従来、札幌以外で「出張入試」を行わなかったのは、これらの学校への配慮があったからだ。しかし、入試制度の変革や厳しさを増す少子化など、状況の変化が同高の決断を後押しした。

道内最大の私立高は「弱い私立がつぶれればいい」とは思わない。目指すのは、私立全体の底上げだ」と口をそろえる。

進学校、スポーツ有名校、不登校生などの受け皿を自任する高校へ、私学はいま、さらに多様な進路を目指している。

「規制緩和」の先に何を把握えるのか。真価が問われるのはこれからだ。

この連載は報道本部の大川由佳、武田亮一が担当しました。